

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	京都ノートルダム女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウトノートルダムジョシダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	近畿地方(大阪府を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップA
	学部・研究科等名	人間文化学部・生活福祉文化学部・心理学部
	担当教職員名・役職	キャリアセンター所長 萩原暢子
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	31
	受入企業等数	20
	受入企業等名	京都中央信用金庫京都信用金庫株式会社プリンスホテル グランドプリンスホテル京都株式会社京都ホテル 京都ホテルオークラ京都セントアンドリュース教会株式会社らくたび為国印刷株式会社丸善雄松堂株式会社株式会社老松ジェイ・ライン株式会社株式会社京都パープルサンガ(京都サンガF.C.) 京都府下鴨警察署東近江市役所 公文書センター東近江市役所 観光物産課東近江市世界風博物館東近江大風会館吹田市役所吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館のびのび子育てプラザ吹田市役所吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館青少年活動サポートプラザ吹田市立博物館社会福祉法人仁恵会特別養護老人ホーム ユーカリの里社会福祉法人修光学園 飛鳥井ワークセンター
インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習先に依りますが、社員の基幹業務の補助・店舗実習・営業同行、提示された課題に対するワークショップやプレゼンテーション、など
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次～4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	主に2・3年次生を対象に、事前・事後学習、夏期休業期間中に10日間以上の実習と、成果発表からなるプログラムです
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	

	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの趣旨・目的の理解、組織で働く際のマナーやコミュニケーションについて、実習受け入れ先の研究を深めるなど行った上で、学生自身の目標を設定します
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習先での体験を他の実習先の学生とグループワークを通して共有し、自信の学びを深める機会としています。さらに、事前に設定した目標の達成度を評価し、以後の学生生活への活かし方を検討します。最後に、実習先担当者を招いた成果発表会を行っています。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	実習中に教職員が実習現場を訪問し、実習先企業・実習学生双方に聞き取りをし、状況の確認を行っています。必要に応じて、実習生の相談にのったり、実習中の注意点を伝え、以降の実習の充実を図ります。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	自分自身で立てた目標に対する自己評価や成長した点、新たな課題などについて考えを深め、自分の言葉でまとめることで、以後の活動計画が明確にできるよう役立てています
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	10日間以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習先全てに10日間以上の実習をお願いしています。実習内容によっては連続しない場合もあります。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習内容について、個別に実習先と打ち合わせし、大学の実施目的や意義を理解いただいた上で、事業の特徴を生かしたものとしています。実習中の学生の評価も、数値のみでなく講評にて頂戴し、学生へのフィードバックとしています。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://mutsuki.notredame.ac.jp/syllabus/syllabusprint.do?risyunen=2017&semekikn=1&kougicd=101840AJ&crclumcd=4007
問い合わせ先	大学等名	京都ノートルダム女子大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	事務室長
	担当者氏名	嶋本典子
	電話番号	075-706-3744
	メールアドレス	shushoku@notredame.ac.jp